

SG

Singapore

シンガポール教育旅行ガイド





ようこそ！ シンガポールへ

シンガポールは「人材こそ最大の資源」という国家観に基づき、人材育成と国民の教育を重要政策に位置付けて教育制度を構築し、教育国家として知られるようになりました。その優れた教育の成果は、理数分野における世界的な卓越性やバイリンガル教育の充実となって表れています。探求型学習法や教室を出て積極的に学ぶといった考え方は、日本の学校教育でも近年重視されているアクティブラーニングに相通ずるものがあります。

こうした教育のあり方を支える具体的なコンテンツとして、学力コンテストやアドベンチャー・キャンプ、さまざまな学習プログラムなど、多彩で豊かな教育コースやアクティビティが存在しており、ダイナミックな学習環境を用意できることもシンガポールのアドバンテージといえます。

もちろん教育効果は教育制度や学習法だけで得られるものではありません。安心して学びに没頭できる環境。治安面

や衛生面に何の不安もないシンガポールの環境があつてこそ最大限の教育効果を手に入れることができます。

加えて多民族国家として社会のダイバーシティを保ちながら、どの民族であっても英語を話し、コミュニケーション力を磨いているシンガポールの人々のあり方は、国際理解のあるべき姿として日本の皆さまに多少なりとも参考にしていただけるのではないのでしょうか。

日本における海外修学旅行の実施は、16年に1180校・16万3245人(延べ人数)に達しました。このうち学校数で12.0%を占める142校、人数で11.8%に当たる1万9286人が、シンガポールへの修学旅行を実施しました。結果、シンガポールは海外修学旅行目的地として学校数・人数とも2位となりました(全国修学旅行研究協会)。引き続き皆さまにシンガポールへの修学旅行を検討していただき、実現していただけるよう、このガイドブックをご用意しました。



Content

- 03 シンガポールでの教育旅行を勧める3つの理由
- 04 シンガポール基本情報
- 05 教育旅行のケーススタディー
- 08 教育プログラム
- 12 テーマ別モデルコース
- 14 教育プログラムリスト
- 15 教育旅行企画のヒント・お役立ち情報

表紙：ガーデンズ・バイ・ザ・ベイの上空写真

シンガポール教育旅行ガイド

発行：シンガポール政府観光局
発行日：2018年12月20日
編集制作：株式会社トラベルジャーナル
デザイン：株式会社コンセント
印刷：株式会社文星閣

データは2018年11月現在の情報です。ガイド内の情報の正確さには発行の時点で最善を尽くしております。しかしながら、発行後に情報の変更が発生する可能性があります。ガイドの内容に関連して発生した損害、損失、権利侵害または迷惑について、シンガポール政府観光局は責任を負いかねますのでご了承ください。

シンガポールでの教育旅行を勧める

3

つの理由

REASON 1

学びに専念できる 最適な環境

教育旅行で真っ先に考慮すべき要素が安全である。アジア屈指の豊かな社会を実現し、経済的にも政治的にも安定しているシンガポールは、治安も良好で、国際的な安全性比較調査でも世界4位だ。国を挙げて美しく衛生的な街づくりに取り組んでおり「クリーン&グリーン」な環境を実現している。自然災害も少なく、WRI(世界災害リスク指標)ではシンガポールは約170カ国中160位(順位が低いほどリスクが小さい/日本は17位)。危険性が「非常に低い」と判定されているのも安心材料だ。

世界有数の観光地でもあるシンガポールは、旅行ジャーナリストが選ぶ「おもてなしのいい都市」1位に輝いており、ホテルをはじめとする観光インフラ全般も高いレベルにあり、教育旅行の目的地に適した条件がそろう。

航空便の座席供給力も大きく、東京、大阪、名古屋、福岡、那覇といった主要都市から直行便が就航している。所要時間は約6時間半、時差は1時間と体力消耗を最小限に抑えられる。

REASON 2

条件に恵まれた 質の高い教育

教育旅行の目的地選定におけるシンガポールのアドバンテージの1つは英語環境だ。アジアでは数少ない英語圏で、生きた英語を学ぶには打ってつけの環境で、各種英語研修プログラムも充実している。また英語以外に3言語(中国語、マレー語、タミル語)も公用語とされており、英語を含む複数の言語を自在に操る国民が多い。バイリンガル、トリリンガルが当たり前のシンガポールの人々と接することで、語学学習意欲を刺激され、向上心が高まる効果も期待できる。

またOECDの学習到達度調査(対象は15歳)で、科学的リテラシー、数学的リテラシー、読解力が世界1位となっていることで証明されているように、シンガポールは優れた教育制度を誇る。こうして育まれた同年代の優秀な若者たちとの交流で、知的好奇心への刺激も期待される。

シンガポールへの教育旅行体験は、単に語学や国際理解の基本を学ぶだけでなく、グローバルレベルでのコミュニケーション能力や問題解決能力の向上にもつながるはずだ。

REASON 3

多彩で良質な 教育プログラム

シンガポールは、空港から市内主要スポーツ間の移動はどこでも車で20～30分程度とコンパクトでありながら、自然学習やエコロジー学習の素材にも事欠かない。熱帯雨林を題材にした、最先端の自然科学的な知見を取り込んだ博物館、水族館、植物園、動物園等を活用することもでき、質の高い各種自然教育プログラムが用意されている。都市整備や衛生管理といった研究題材も数多くあり、幅広いテーマを取り上げられる。

英語学習に関しても、語学能力の向上にとどまらない。プレゼンテーションスキルを高めるためのプログラムや、問題解決能力を鍛えるプログラム等と組み合わせることで、自主性を重視した能動的で探求型の学習内容に発展させることもできる。公共交通機関が整備され治安も良いシンガポールでは、班別の自主行動によるプログラムをしっかりと組み入れることができ、自主性や計画性、行動力、協調性、チームワークを鍛えることもできる。

シンガポール基本情報

国について

マレー半島の南端、ほぼ赤道直下に位置するシンガポール。国土面積は722km²で、東京23区(619km²)よりやや大きい。国全体が1つの都市である都市国家と呼ばれている。



国名はサンスクリット語で「ライオン」を意味するsinga(シンガ)と「都」を意味するPura(プーラ)から。国旗は、人類の平等と融和の赤色、純潔と美徳の白色、5つの星は国民の自由・平和・進歩・平等・正義を意味し、三日月は若い国家の発展を実現するとの決意が表現されている。

人口563万人(18年6月時点)のうち国民・永住者は397万人で、中国系が約7割、マレー系13%、インド系9%と多民族国家の体をなしている。公用語は英語、中国語(北京語)、マレー語、タミル語の4つ。たいていの人は数力国語を話す。宗教もイスラム教、道教、仏教、キリスト教などさまざま。

日本との時差は-1時間で、東京(羽田・成田)、名古屋、大阪、福岡、那覇から直行便が飛んでいる。所要時間は約6時間半。

旅行について

熱帯性気候で、昼間は30度を超すこともあるが、年間平均気温は24~27度で、年間通じて気温差は少ない。

服装は年間を通じて半袖でOKだが、建物内は冷房が効いているので、上着を持参のこと。モスクや寺院など宗教施設は、ノースリーブなど肌の露出が高い服装が禁止されており、注意が必要。熱帯特有のスクールに備えて、雨具も用意したい。

シンガポールの水道水は問題なく飲用できる。トイレのほか、街並み、各施設も日本と遜色なく清潔に保たれている。

電圧は220~240Vで、50ヘルツ。コンセントの形状は英国式の3つ穴で、差し込む部分が四角い形のもものが主流。



お金



通貨

通貨単位はシンガポールドル(SGD)とセント(SGD1=100セント)。紙幣はSGD2、5、10、20、50、100、500、1000、1万。硬貨は1、5、10、20、50セントとSGD1。SGD1は約82円(18年11月現在)。



両替

空港、銀行、ホテル、公認両替所(Licensed Money Change)などで可能。土曜は両替業務を行わない銀行もあるので注意。

ルール・マナー



郵便

日本へははがきが60セント、封筒が20gまでSGD1.30。



営業時間

ショップやデパートは10:00~21:30ごろまで、レストランは11:30~15:00、18:00~23:00、官公庁は8:30~17:00(月~金曜)。



マナー

路上でのゴミ捨て、つば吐き、トイレの水を流さないなどは法律で禁止されている。



チップ

基本的にチップの習慣はない。枕チップやベルボーイに荷物を運んでもらったなど、特にお世話になった場合はSGD1~2が目安。

旅行環境



交通

MRTが一般的で、国中を網羅している。運行は5時台~24時台まで3~8分間隔。料金は市街内ではSGD1.90。タクシーはメーター制。初乗りは1kmまでSGD3~3.90(車種により異なる)で、タクシー配車アプリも一般的。路線バスは充実しているが、車内で駐車場のアナウンスがないなど、初心者には少し分かりづらい。



Wi-Fi環境

ほとんどのホテルで環境が整っている。ロビーのみ、部屋のみ使用可など条件が異なるので注意。日本でWi-Fiルーターを借りる場合は、変換プラグの有無は要確認。中心街、人気観光地では高速無料Wi-Fiが整備されているが、シンガポールの電話番号が必要となる。



医療体制

最先端の医療技術が導入されており、日本とほとんど変わらない。日本人や日本語が話せるスタッフのいる病院もある。

出入国



パスポート・ビザ

パスポートは有効期限6カ月と滞在日数が必要。ビザは30日までの滞在なら不要。



通関

持ち込み禁止品は爆竹、チューインガムなど。酒類は1リットルまで持ち込みできる。タバコ類はすべて課税。

1

教育旅行の
ケース
スタディー

三田国際学園中学校・高等学校

学びをアウトプットする場へ

三田国際学園中学校・高等学校は15年の共学化に合わせてシンガポール研修を開始。アジア太平洋の中高生が集う自然科学、社会課題両分野のアイデアコンテスト「グローバル・リンク・シンガポール」に参加している。



1 英語で科学アイデアを発表する生徒 2 参加した各国の生徒による交流会 3 市内を散策。多文化の趣を肌で感じる

SCHOOL EXCURSION SCHEDULE

シンガポール海外研修日程

1 日目	朝	羽田空港集合、出発
	午後	シンガポール・チャンギ空港着 市内見学
2 日目	午前	市内見学
	午後	シンガポール国立大学のキャンパス ツアー グローバル・リンク・シンガポール 「ポスターセッション」 各国参加者との国際交流会
3 日目	午前	グローバル・リンク・シンガポール 「ポスターセッション」 審査
	午後	「ポスターセッション」 審査と表彰 式
	夜	フェアウェルディナー
4 日目	午前	朝食後、ホテルを出発
	日中	セントーサ島内で班別自主研修
	夜	チャンギ空港から夜便で日本へ
5 日目	朝	羽田空港着
		解散

三田国際学園高校は共学制で高校に入学した生徒が2年生に進級した17年から、修学旅行の一環として、理系コースの生徒によるシンガポール研修を実施している。同コースには、先端理系の国公立大学や医歯薬獣医系の大学を目指す生徒が在籍し、研究者としての素養を培う「基礎研究」に取り組んでいる。

その一方で、同校では学びのインプットだけでなくアウトプットも重視している。その一環でアジアのトップクラスの生徒たちが集まる場で、英語で日ごろの研究成果をプレゼンテーションできるグローバル・リンク・シンガポールを活用することにした。参加する科学をテーマにしたポス

ターセッションでは、参観者の質問に対して臨機応変に対応する能力も問われ、語学力とプレゼンテーション能力の両面を鍛えられると効果を実感している。

これ以外の場面でも、大学生との交流や、生徒だけで行う班別行動が組み込まれており、英語力やコミュニケーション能力を鍛えることになる。市内見学としてリトルインディアやチャイナタウンなど多民族国家を象徴する場所も訪問し、多民族が共生する歴史と共生への取り組みを体感するきっかけになっているという。多様性を尊重する姿勢が学べることも、シンガポール研修の重要な意義となっている。

生徒の成長ぶりが目覚ましい

教頭（学習・進路指導部長）

田中潤さん

シンガポールを選んだ理由は、グローバル・リンク・シンガポールの存在のほか、良好な治安や衛生環境により安心して生徒を送り込めることだ。理系コース全員が参加する夏の必修行事として実施し、17年は19人、18年は15人が参加した。

研究発表の場では、参観者からの鋭い質問も飛び交い、英語で対応するのは簡単ではなく大きなプレッシャーだ。しかし、発表を終えた生徒は強い達成感を感じ、「できる」という強い肯定感と自信が芽生えるようだ。帰国後は日々の勉学や生活への向き合い方がより前向きになり、語学の学習意欲も高まる傾向が見られることも学校側として喜ばしい点といえる。

教育旅行の
ケース
スタディー

2

磐田東中学校・高等学校

自主性を引き出せる環境を重視

中高一貫教育を取り入れる磐田東中学校・高等学校は、英数科の高校2年生の全員参加でシンガポール海外研修旅行を実施。現地では段階を踏んで生徒たちに自主行動を促すプログラムを用意し、自分たちの力だけで問題解決するたくましさを身に付けさせる。



1 3



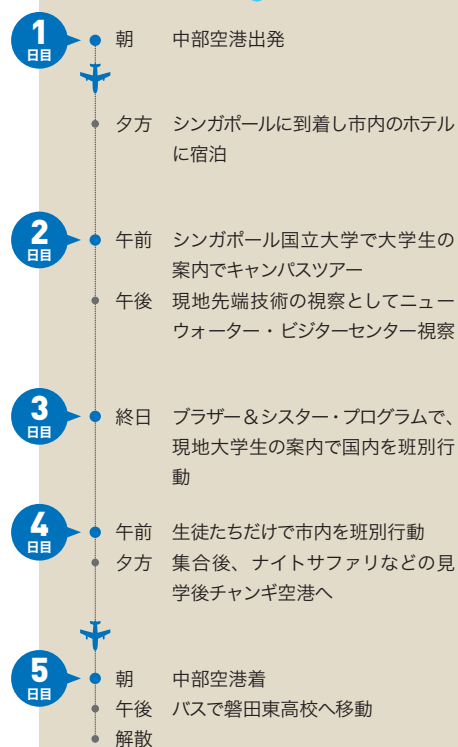
2



1 シンガポール国立大学で特別授業を受ける。大学生との交流で自立心や自信をつけさせる 2 大学生と市内を巡り、生徒のみの班別行動に向け準備 3 最終的には班ごとに市内を自由に散策する

SCHOOL EXCURSION SCHEDULE

シンガポール海外研修日程



17年のシンガポール研修旅行は、英数科の生徒61人が参加して12月に行った。滞在中のプログラムで重視しているのは、最終的に生徒たちだけで班別行動できるようにすること。言語が異なり土地勘も乏しい異国の地で、自主的に行動することを通じて、コミュニケーション能力のみならず積極性や問題解決能力の向上を図る。そのためには生徒が安心して行動できる安全な環境が必要なため、シンガポールを研修先に選定した。

第1段階では、シンガポール国立大学で、同大学生の案内によりキャンパス内を見学する。第2段階では、行動範囲をシンガポール国内全域に

広げ、現地大学生とともに班別行動する。セントーサ島まで足を延ばす班もあった。

そして、最終日の第3段階では班別に分かれて生徒たちだけで行動する。行動範囲は市内に限定するものの、案内役の力を借りずに英語の壁や不慣れな土地での移動というハードルをクリアする。最終的な自主行動を実現するためにも、MRTなど公共交通機関が整備されているシンガポールは理想的だ。

先端技術の視察では、下水を高度処理して工業用水などに再利用するニューウォーター施設を見学し、先端技術やシンガポールの水事情を学んでいる。

成功体験を積ませるために

英数科長
小泉孝秀さん

海外旅行経験のある生徒もいるが、それはお膳立てされたツアー旅行者としての体験にとどまる。しかし、研修旅行では最終的に日本語が通じず、なれない海外で自主的に行動するところまでを経験させる。まさしく自ら旅を作る。その成功体験が「自分たちでできる」との自己肯定感と自信につながる。

生徒には何かで失敗したことをきっかけに、自己否定感を抱いてしまう者もいる。そうした生徒は特に、シンガポールでの自主行動により自分の可能性を再認識し喜びを味わってもらいたい。研修旅行のような勉強以外のことであれ、勉学のことであれ、生徒たちにとって成功体験を積むことが成長につながると考えている。

教育旅行の
ケース
スタディー

3

お き どう ぜん
隠岐島前高等学校

多様性ある社会の価値を学ぶ

隠岐諸島・島前地域にある隠岐島前高校には、島外や県外からも多くの生徒が集まる。多民族国家のシンガポールを訪れることで、自分たちの高校にも通じる多様性の価値や共生の課題について学び、未来へのヒントを得るのだという。



1 現地の学生とのプレゼンテーションや交流で、グローバルな視点を養う 2 ホームステイで多様性を受け入れる価値観を身に付ける 3 日系企業で話を聞く。ランチミーティングで交流も



SCHOOL EXCURSION SCHEDULE

シンガポール海外研修日程

- | | | |
|---------|------|--|
| 1
日目 | ● 朝 | 学校に集合し出雲空港へ |
| | ● 夜 | 羽田空港からシンガポールへ（機内泊） |
| 2
日目 | ● 朝 | チャンギ空港到着 |
| | ● 午前 | 班別行動で市内見学 |
| | ● 午後 | シンガポール経営大学で、同大学の学生と同世代交流 |
| 3
日目 | ● 朝 | シンガポール国立大学、シンガポール経営大学、シンガポール工科大学等で、生徒がグループごとにプレゼンテーションを実施。その後、キャンパスツアー |
| | ● 午後 | ホストファミリーとの対面式 |
| | ● 夕方 | 各家庭で夕食 |
| 4
日目 | ● 午前 | ホームステイ先で朝食後、集合して複数の企業の視察とランチミーティング |
| | ● 午後 | 全員で市内観光した後、チャンギ空港 |
| 5
日目 | ● 朝 | 羽田空港着後、出雲空港へ |
| | ● 午後 | 出雲空港から隠岐へ |
| | ● | 解散 |

隠岐島前高校は島の高校でありながら、生徒の約4割は「島留学」制度を利用してやって来る県外出身者だ。豊かな自然と温かい島の人情、スーパー・グローバル・ハイスクール（SGH）にも指定される優れた教育内容などを求めて、九州や関西、関東など全国から生徒が集まっている。多様なバックグラウンドを持つ生徒が集う高校生活は、異なる価値観を認め合い、協働する大切さを学ぶ時間でもある。

こうした教育効果を高めるのが2年次のシンガポール海外研修。昨年は63人が参加した。シンガポールは異なる民族が共生する多民族国家の成功モデル。田舎の島と都会の島との違い

や規模の違いはあるが、高校の取り組みに共通するものがあり、考えるヒントとなる材料がいくつもあるという。重視しているプログラムは、島前地域の地域課題を現地大学生に説明するプレゼン。より良いフィードバックを受けるためのチームの入念な準備も、大事な研修の一環。

ホームステイでは異文化を体験することで、日本では感じにくい文化の違いを理解し、価値に気付く機会を生徒に与える狙いがある。企業視察では日系企業等の複数企業を訪ね、海外駐在員に直接インタビュー。海外の第1線で働く人の話を聞くことで、生徒たちが進路を考えるための何らかの参考としてもらうのが狙いだ。

グローバルな学びを实践

隠岐島前教育魅力化コーディネーター
曾根裕子さん

授業の一環として取り組む地域課題研究の成果を現地大学生に英語でプレゼンする体験は、生徒にとって極めて貴重な体験だ。内容に対する質問や意見交換もあり、地域の課題をグローバルな視点で捉えるという、まさにグローバルな学びを体験できる場だからだ。シンガポールで得た視点も交えて地域課題研究をまとめ上げ、高校を支えてくれる地域の人たちを招いた発表会で、披露することを最終目的としている。

活動を通じて生徒同士が触れ合い合う効果もある。英語が苦手でも意外なコミュニケーション能力を発揮する同級生、異文化でたくましく振る舞う仲間たち。そんな姿を目にし、刺激し合っているようだ。

自然&エコロジー、生物の多様性

NATURE & ECOLOGY, BIODIVERSITY

急速に都市化が進むシンガポール。一方で、最新技術や先進的な取り組みによって自然環境との調和も図られてきた。自然の多面性、都市のなかの自然、人間と自然との関わりなど、体験プログラムなどを通じて学びにつなげてほしい。

WILDLIFE RESERVES SINGAPORE

ワイルドライフ・リザーブス・シンガポール

www.wrs.com.sg/

ワイルドライフ・リザーブス・シンガポール(WRS)は、ジュロン・バードパーク、ナイト・サファリ、リバーサファリ、シンガポール動物園の4施設を管理運営している。自然との共生がいかに重要で価値あるものであるかを認識してもらうことが一環したテーマで、シンガポールのみならず東南アジアの生物多様性を保護することに重点を置いている。各組織、機関との連携を通じて年間460万人が訪れる。

クラス別や班別研修の少人数から、200人程度の大型団体まで対応可能なさまざまなプログラムを用意しており、園内で飼育する動物たちの健康を管理する動物病院や、実際の餌を用意するキッチンを回る、バックヤードツアーが用意されている。大型団体向けには講演もあり、WRSが取り組んでいる環境保全と野生動物の保護活動や、世界初のナイト・サファリの開園に至るまでの道のり、開発チームの苦労や取り組みについて学ぶことができる。



SINGAPORE BOTANIC GARDENS

シンガポール植物園

www.nparks.gov.sg/sbg

2015年にシンガポール初の世界遺産に登録されたシンガポール植物園は、約160年にも及ぶ長い歴史と、東京ドーム17個分に相当する82haもの広大な敷地を誇る。園内には、3000種のランを鑑賞できるナショナル・オーキッド・ガーデンや250種以上のショウガの花が咲くジンジャー・ガーデン、6haにもなるレインフォレスト・ゾーンなど見学するだけでも環境教育につながる見どころがある。

教育プログラムも多彩。エコガーデン・ツアーでは、文化・経済と植物の関わりといった視点から歴史を学ぶことができる。病気の治療に活用された薬草や、精神の回復に役立ったハーブ、重要な輸出品だったスパイス、古代エジプト時代の紙の原料だったパピルスなどの知識を得ることができる。東南アジアの雨林と湿地の生態系を学べるレインフォレスト・ツアーも魅力的。ワークショップ形式のプログラムも用意されており、ニーズに合わせて、学び方を選択してほしい。



科学&テクノロジー、エンジニアリング、数学

SCIENCE & TECHNOLOGY, ENGINEERING, MATHEMATICS

科学や数学の分野で高い水準を誇り、第一線で活躍する専門家から最新技術の知識を得ることができる。
理系分野への興味を養うだけでなく、実践的な学びにもつなげられる。

GARDENS BY THE BAY

ガーデنز・バイ・ザ・ベイ

www.gardensbythebay.com.sg/en.html

マリーナ地区にある総面積101haの巨大植物園だが、最先端技術と斬新なアイデアにより植物園の枠に収まらない展示を実現している。緑化政策を推進してきたシンガポールの象徴であり、世界的にも関心が高まるサステナビリティ(持続可能性)を学ぶ格好の場所でもある。植物園の施設自体が、省エネやリサイクルなどの環境負荷を軽減する工夫を凝らしている。

教育旅行に人気があるのは標高1000～2000mの植生を再現した巨大ドーム「クラウドフォレスト」や、世界各国の珍しい樹々や花々をその環境ごと再現して紹介する「フラワードーム」。このほかシンガポールの特性と歴史についての理解を深めることを目的に、シンガポールを構成する各民族に関わりの深い植物を展示した「ヘリテージガーデン」なども教育旅行にうってつけの施設となっている。教育旅行向けのスクールプログラムは10以上用意されている。



F1 IN SCHOOLS

F1イン・スクール

www.f1inschools.com.sg/

モータースポーツの花形であるF1(フォーミュラ・ワン)を切り口に、科学やテクノロジー、工学分野に対する若者の関心を高める目的で開発された教育プログラム。最終的には、自分たちで製作したミニチュアのF1カーの速さを競うチーム対抗戦を行う。参加チームは、物理学や空気力学、コンピュータ設計(CAD)の基本を学び、圧縮した二酸化炭素で駆動するミニチュアのレースカーを設計する。チーム対抗レースを行うことで、F1チームの運営、チームワーク、チームの統率のあり方なども学ぶ。カーレースという形を借りて科学知識の実践的な応用を楽しみながら、経営学、チームビルディングの面でも高度な学習体験ができるわけだ。

各3時間のセッションによる4部構成で所要時間は12時間。対象年齢は10～18歳。グループの人数は30～120人の対応が可能。世界数カ国で行われているF1イン・スクールの各国代表チームによる世界大会も開催されている。



リーダーシップ&ライフスキル

LEADERSHIP & LIFESKILL

教育レベルが高いシンガポールでは、国際的に活躍できるリーダーシップを持ったグローバル人材育成に力を入れている。
世界最高水準のノウハウは、各種プログラムなどで体験することができる。

SINGAPORE MEDIA ACADEMY

シンガポール・メディア・アカデミー

www.mediaacademy.sg/

シンガポール・メディア・アカデミー(SMA)は、メディア産業や表現活動を通じて活躍する人材の育成や、メディア産業に対する若者の理解を深めることを目的に、シンガポール国営放送の100%子会社として設立された教育機関。

メディア産業で活躍したり、メディアの本質を理解したりするために必要となる知識やスキルを学べる。SMAはシンガポール雇用訓練庁の継続教育訓練センター(CET)にも指定され、メディア産業の職業教育の一端を担っている。

教育旅行向けのプログラムでは、ニュース・プレゼンテーションや取材、演技などのスキルを、プロフェッショナルが実践的に指導する。プログラムの対象年齢は10歳から18歳まで。プログラムにより半日から2日間の日程で行われる。グループサイズは最大30人まで。講義や指導は英語または中国語となる。



CAMP CHALLENGE

キャンプ・チャレンジ

www.camp-challenge.com

キャンプ・チャレンジは、リーダーシップやチームビルディングといった目的に応じた多種多様なプログラムを提供している。次世代教育を牽引する業界のプロフェッショナルであるアウトドア・ラーニング&アドベンチャー教育協会の創立メンバーが参画しており、実践的な知識や技術の獲得だけでなく、礼儀や問題解決能力、主体性を養うことができるのが特徴。2時間の短いものから14日間まで、10人から500人を受け入れることができる。

目玉の1つが、チームビルディングを目的とした24mのタワーアクティビティ。チーム5~6人が、クライミングやロープゲームの課題を乗り越えて頂上を目指す。アーチェリーやカヤックなどのスポーツ、GPS(全地球測位システム)を使ったゲームなども用意。リーダーシッププログラムは、世界的ベストセラーの「リーダーシップ・チャレンジ」の理論に基づいて構成され、リーダーに必要な要素を学べる。



シンガポール・ストーリー

SINGAPORE STORY

多民族国家や都市国家、東西交易の要衝などシンガポールには多様なストーリーがある。
そんな多彩な物語を横断的に知ること、新たな発見や価値観に出会える。

NATIONAL MUSEUM OF SINGAPORE

シンガポール国立博物館

www.nationalmuseum.sg/

シンガポール国立博物館は、1887年にその歴史が始まった同国最古の博物館。建築物そのものも歴史的な趣を残しており、シンガポールを象徴する建築物の1つだ。同国の歴史と文化を分かりやすく展示しており、班別学習で個別に設定したテーマなどで、全体像を把握する目的で最初に立ち寄ってほしい場所となっている。

シンガポール・ストーリーを学ぶ際に特におすすめなのが、シンガポール・ヒストリー・ギャラリーだ。地質学的な発見から始まり、1819年のラッフルズ卿の上陸、英国植民地時代、第二次世界大戦、そして先進的な都市国家に発展する現在までを時系列に沿って学習できる。戦後の歴史では、急成長する国家が直面する課題をいかに乗り越えていったかを知ることができる。また日本占領時の様子なども伝えており、外から見た日本の歴史といった視点を持つきっかけにもなる。



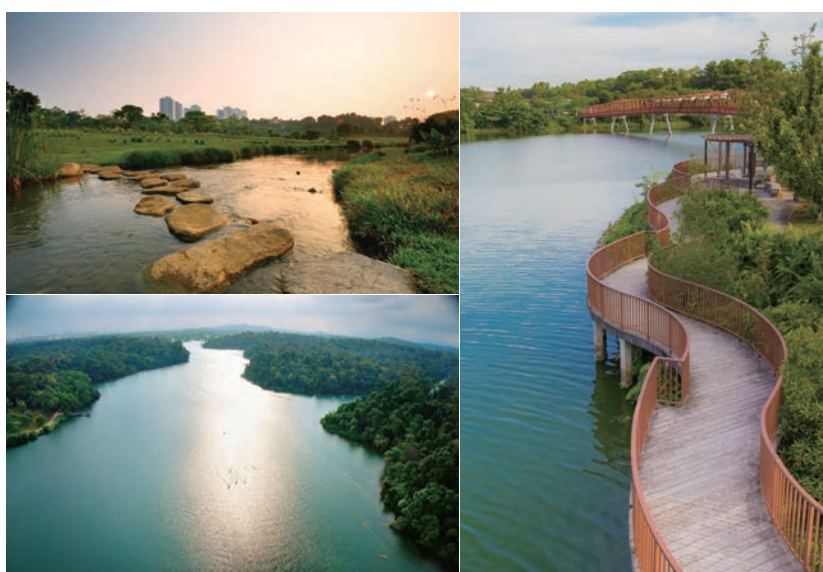
SINGAPORE ENVIRONMENT COUNCIL

シンガポール環境協議会

sec.org.sg/web/

シンガポール環境協議会(SEC)は、シンガポールにおける持続可能性にかかわる環境問題について考えるNGO(非政府組織)で、シンガポールやアジアの環境教育関連のアワードを多数受賞している。SECの教育プログラムに参加することで、シンガポールの水資源に関し、川や湿地などを含むエコシステムの重要性を学ぶとともに、水資源の乏しいシンガポールの水資源対策についても学ぶことができる。

具体的には、Active(A)、Beautiful(B)、Clean(C)の頭文字から命名された、貯水池や水源地の見学ルートABCウォーター・ラーニング・トレイルを1時間半～2時間かけて見て回るコースなど。このほか土地面積が限られたシンガポールの環境を保つために構築された、優れたごみ処理・管理に関するシステムを学ぶプログラムも用意している。ゴミ管理の重要性や埋め立て処理のあり方について座学で学ぶほか、実際の埋め立て地の見学も行う。



テーマ別モデルコース

シンガポールで特に人気の高い3つのテーマを
流れに沿って効率よく巡るモデルコースを紹介する。



Multi Culture 多民族文化

ダイバーシティ
への視点養う

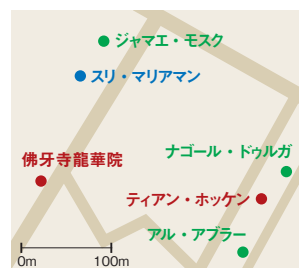


最初に移民が集まったのがチャイナタウン。ティアン・ホッケン寺院は中国寺院のなかでも最も古い

リトルインディアは日本では珍しいインド人街。リトルインディア・アーケードは衣装店や菓子、飾り物などインドの製品が売られている



チャイナタウン
ティアン・ホッケン寺院
ナゴール・ドゥルガ寺院
アル・アブラー・モスク
佛牙寺龍華院
スリ・マリアマン寺院
ジャマエ・モスク
チャイナタウン・ヘリテージ・センター



●イスラム寺院
●中国寺院
●ヒンズー寺院

宗教施設が密集し、
多文化・多民族国家の縮図のような空間が広がる

カンボン・GRAM
サルタン・モスク
アラブ・ストリート
ハジ・レーン
マレー・ヘリテージ・センター



カンボン・GRAMはマレー文化の街。サルタン・モスクはシンガポールで最も大きいモスク(奥)。正面のアラブ・ストリートはエキゾチックな空間が広がる

リトルインディア
テッカセンター
リトルインディア・アーケード
スリ・ヴァーラマカリヤマン寺院

Water Resources 水資源

水問題4つの
解決策を知る

マレーシアから買う水は、ジョホール水道のタンクを通してシンガポールに送られる。



マリーナ湾を海水から淡水に変える装置。ビジターセンターがそばにある。水資源問題、エコ・サステナブルエナジーに関する展示等がある

水を買う

ジョホール水道

貯水する

貯水池

汚水を真水に

ニューウォーター・
ビジターセンター

マリーナ湾

海水を淡水に

マリーナ・パラジ



マクリッチー貯水池は公園もあり、ブッシュウォーキングなど自然に親しむことができる

汚水を真水に変えるセンターを訪ねて、環境保全や最新の技術を学ぶ。

町の真ん中にある貯水池。

History 歴史

開港から戦争、
独立までの
経緯を学ぶ



シンガポール・ストーリーのコーナーでまずはシンガポールの歴史の全体像をつかむ。

シンガポール建国の父と呼ばれるラッフルズ卿の像は1819年初めて上陸したとされる場所にある

1827年に建てられた旧国会議事堂のアーツハウス。アジア文明博物館は1867年に建造され、移民局として利用されていた。フラトンホテルはもともとは郵便局で、灯台の役割も果たしていた。2015年にオープンしたナショナル・ギャラリーは世界最大級のアートギャラリー（写真）。

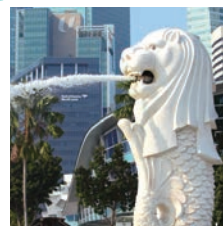
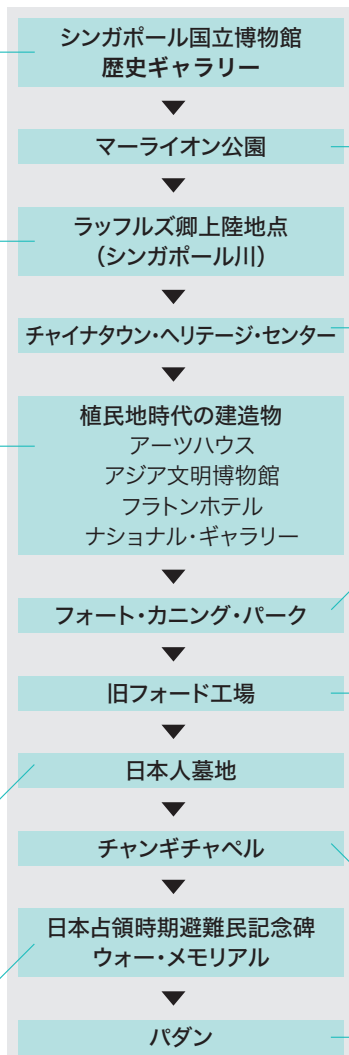


ナショナル・ギャラリーではシンガポールと東南アジアの現代アートが鑑賞できる



1800年代に海外に渡った日本人の山本音吉やからゆきさんから、第二次世界大戦で戦死した人の墓がある。南方軍総司令官・寺内寿一元帥、明治の文豪の二葉亭四迷の墓もある

1942～1945年までの戦時下の日本軍政下に命を落としたシンガポール人の鎮魂の碑。



シンガポールの新旧の国名を象徴するマラーイオン。テマセク（海の町）と呼ばれていた頃と、現代シンガポールの象徴的エリアのマリーナ湾を一望

シンガポールの初期の中国系移民の暮らしに触れる。日本語でのマルチメディア・ガイドが利用できる。

古代マラヤ王族が住んでいたこの地はかつて市民の立ち入りは禁じられていた。「禁断の丘」と呼ばれている。英国の植民地となった後はガバメント・ヒルと呼ばれた。第二次世界大戦時は軍事基地にもなっていた。



1942年、日本軍はマレーシア側からシンガポールに入った。旧フォード工場は連合軍が日本軍に降伏した場所でもある

第二次世界大戦中に日本軍の捕虜となった英国、豪州など連合国軍人の元収容所。

マレー語で広場の意味。独立以来何度も独立記念日の式典が行われ、2015年の50周年もここで開催された。

班別行動のテーマ

生徒の自主学習に取りあげられるテーマ例

自然&エコロジー、生物の多様性

Nature & Ecology, Biodiversity

- シンガポールの水資源問題と解決策（隣国から水を購入、20の貯水池など先端技術施設）
- 緑化政策。ガーデンシティからシティ・イン・ア・ガーデンへ（持続可能な開発などを学ぶ）

リーダーシップ&ライフスキル

Leadership & Lifeskill

- アジアの英語について（シンガポールでの英語体験、英語で行うプレゼンテーション）
- シンガポールの経済（グローバルな環境、共働き、経済発展の歴史）
- アジア本部（本社）、スタートアップ企業が多い国、理由について

科学&テクノロジー、エンジニアリング、数学

Science & Technology, Engineering, Mathematics

- 世界に注目され、手本とされる動物園
- 世界最高レベルの科学と数学、教育システム
- 地震や台風のない国のユニーク建築、都市開発計画
- トロピカルな気候のなかの自然、生物多様性、野生の保存

シンガポール・ストーリー

Singapore Story

- 限られた国土、資源での都市開発の運営（渋滞緩和のための交通政策、天然資源、ニューウォーターの開発等）
- 多民族や多文化との調和（中国、マレー、インド、プラナカン、ユーラシアンの文化、伝統、それぞれのルーツ）
- シンガポールの歴史（東インド会社、第二次世界大戦中の日本の軍政下、独立以降の発展）

教育プログラムリスト

シンガポールでは各施設や団体がさまざまなプログラムを用意している。主要な体験リストから抜粋して紹介する。



■ 自然＆エコロジー、生物の多様性

プログラム	概要	URL
S.E.A Aquarium	海洋生物の知識を深めるプログラムや水族館運営について学ぶプログラムを実施	www.rwsentosa.com/en/attractions/sea-aquarium/explore
Bollywood Veggies	シンガポールの食文化に触れ合う。農場で野生動物を見つけたり、野菜や果物を観察。フードミュージアムで食文化の歴史を学習できる	bollywoodveggies.com
Lee Kong Chian Natural History Museum	博物館の資料を用いた動物の分類や、動物の進化を学ぶワークショップ等を展開	lkcnhm.nus.edu.sg/

■ 科学＆テクノロジー、エンジニアリング、数学

プログラム	概要	URL
Science Centre Singapore	天文学、地学、物理学、化学、自然科学、コンピューターエンジニアリングなど多彩なカテゴリーごとにさまざまなプログラムがある	www.science.edu.sg/
Art Science Museum	そのときどきの展示に合わせたワークショップを含め、理解力や知識を深め、創造力を鍛えるプログラムを用意	jp.marinabaysands.com/museum.html
NEWater Visitor Centre	汚水を真水に変える最新の浄水設備などを巡るインタラクティブツアーやワークショップで水の生産方法を学ぶ	www.pub.gov.sg/watersupply/fournationaltaps/newater/nvc

■ リーダーシップ

プログラム	概要	URL
The Global Citizen	国際人として世界に貢献できる人になるためのスキルや価値観、理解を身に付ける2日間、または5日間のコース	www.globalcitizen.org/en/
Singapore Repertory Theatre	小規模企業の映画演劇をテーマとしたプログラムを提供。5日間のワークショップはドラマ、芸術、音楽などをテーマに盛り込む	www.srt.com.sg/index
Logic Mills	分析的思考スキルを磨くプログラム。さまざまなゲームを通して問題解決を学ぶ	logicmills.com/

■ シンガポール・ストーリー

プログラム	概要	URL
Singapore City Gallery	ガイドツアーなどで、ダイナミックに変化するシンガポールの都市計画やその取り組みについて学べる	www.ura.gov.sg/Corporate/Singapore-City-Gallery
Fort Siloso	セントーサ島のシロソ砦で植民地時代や第二次世界大戦との関わりを学習。ガイドツアーあり	www.fortsiloso.com
Unity in Diversity	多民族国家ならではの多様な宗教や文化的エリアをまわり、宗教や文化の融和、そして共存について学習するツアーなどを提供	www.abedutours.com.sg/
Chinatown Heritage Centre	シンガポール初期の中国系移民のコミュニティと文化を学べ、日本語音声ガイドもある	chinatownheritagecentre.com.sg/

■ チームビルディング・アクティビティ

プログラム	概要	URL
iFly Singapore	最新設備のインドアスカイダイビング施設でリアルなダイビングを体験する	www.iflysingapore.com/
FOCUS Adventure	アウトドアなど冒険志向の強い体験型プログラムを提供	www.focusadventure.com/
Cookery Magic	地元のマーケットで食材を購入し、皆で楽しみながらシンガポールのローカル料理をつくる	cookerymagic.com/

■ その他

プログラム	概要	URL
Made In Singapore	シンガポールの産業の変遷や産業が生活にもたらした恩恵などが学べる。工場見学もできる	www.tribe-tours.com/
Space Academy	NASA (アメリカ航空宇宙局) エンジニアが実体験をもとに教えるプログラムを提供	www.space.org.sg/education-and-outreach/space-academy-singapore
NUS Summer/Winter programmes	シンガポール国立大学 (NUS) の海外からの学生向け短期公開講座プログラム	scale.nus.edu.sg/Lifelong-Learning/International-Learners/index.html

※シンガポール国立博物館、アジア文明博物館、プラナカン博物館、シンガポールナショナル・ギャラリーなど主要観光施設でも多種多様なプログラムを用意
※他にも多くのプログラムがあります。詳細はシンガポール政府観光局までお問い合わせください

教育旅行企画のヒント

教育旅行を充実させる大きな要素の1つは、現地との学校交流だ。
互いに気持ちよく、有意義に交流するために現地の学校制度などを押さえておこう。



日本の高校生の年齢にあたるジュニアカレッジ(高校)やポリテクニク(高等技術専門学校)が20校ほどある。20校で受け入れられる日本からの学校数にも限界があることに加えて、試験や長期休暇が重なると実現は難しいことに留意する必要がある。候補に加えたいのが、13～16歳のセカンダリースクール、ハイスクールの約150校だ。シンガポールの公用語は英語で、学生は自分の家族の話す言語(中国語、マレー語など)と英語を日常的に使用しており、英語力は申し分ない。こちらにも候補を加えれば、選択肢は広がる。なお大学は、シンガポール国立大学(NUS)を始め、6校ある。

学校交流について

●学校数

- ・ジュニアカレッジ13校、ポリテクニク5校
- ・13～16歳のセカンダリースクールやハイスクールは約150校

●長期休暇

- ・新学年度は1月から
- ・1カ月以上の休暇は5月下旬～6月と、11月中旬～12月
- ・長期休暇の時期や、試験の時期にあたる休暇前は避けたほうが無難

●現地のニーズ

- ・歌や踊りなどの出し物だけのような表敬訪問は現地側は希望していない
- ・両校の生徒・教員に学びがあり、継続的に交流できる方法を考慮する必要がある。
教育的に価値ある交流を意識することが求められる

お役立ちホームページ

- シンガポール政府観光局
www.visitsingapore.com/ja_jp
- シンガポール政府関連情報
www.gov.sg
- シンガポール国家遺産局(博物館・美術館情報)
www.nhb.gov.sg(英語)
- シンガポール国立公園局
www.nparks.gov.sg(英語)
- シンガポール統計局(各種統計)
www.singstat.gov.sg(英語)
- 在シンガポール日本大使館
www.sg.emb-japan.go.jp
- 外務省(渡航情報)
www.mofa.go.jp/mofaj/toko/
- シンガポール学校情報
www.moe.gov.sg(英語)
- チャンギ国際空港
www.changiairport.com(英語)
- 国立博物館
www.nationalmuseum.sg(英語)
- シンガポール美術館
www.singaporeartmuseum.sg(英語)
- アジア文明博物館
www.acm.org.sg(英語)
- プラナカン博物館
www.peranakanmuseum.org.sg(英語)
- シンガポール・サイエンス・センター
www.science.edu.sg(英語)
- シンガポール経済新聞
singapore.keizai.biz
- アジアエクス(ビジネス情報)
www.asiax.biz

事前研修講座のススメ

日本シンガポール協会は、シンガポール修学旅行の事前研修を行っている。同国に在住経験のある協会役員が見どころや生活文化のほか、国の生い立ち、仕組みなどをわかりやすく説明してくれる。希望するセミナーの内容などを記入のうえ、メールにて申し込み受け付け(有料)。

URL : www.singaaso.or.jp/koshi.html
E-mail : singaaso@singaaso.or.jp



STB Information

■日本支局

〒100-6314 東京都千代田区丸の内2-4-1 丸の内ビルディング1407
営業時間：月～金9:30～12:30、13:30～17:30／
土日祝、シンガポール独立記念日の8/9は休み
URL : www.visitsingapore.com/ja_jp/
E-mail : STB_infojapan@stb.gov.sg



VisitSingaporeJP



visit_singapore

■シンガポール国内でのサポート

- シンガポール・ビジターセンター
- オーチャード・ゲートウェイ 場所／216 Orchard Road (オーチャード・ゲートウェイ@エメラルドに隣接) 時間／8:30～21:30 最寄り駅／MRT南北線サマセット
- IONオーチャード 場所／IONオーチャード1階 時間／10:00～22:00 最寄り駅／MRT南北線オーチャード駅
- チャイナタウン 場所／2 Banda Street (佛牙寺龍華院の裏手) 時間／9:00～21:00 最寄り駅／MRT北東線チャイナタウン駅
- カンボン・グラム 場所／55 Bussorah Street 時間／8:00～18:00 最寄り駅／MRT東西線・ダウンタウン線ブギス駅



Singapore Visitor Centres [シンガポール・ビジターセンター]

CHINATOWN [チャイナタウン]

住所：
2 Banda Street
(Behind Buddha Tooth
Relic Temple and Museum)

営業時間：
毎日午前 9 時 - 午後 9 時

ION ORCHARD [ION オーチャード]

住所：
ION Orchard Level 1
Concierge

営業時間：
毎日午前 10 時 - 午後 10 時

ORCHADGATEWAY [オーチャード・ゲートウェイ]

住所：
216 Orchard Road (Next to
orchardgateway@emerald)

営業時間：
毎日午前 8 時 30 分 - 午後 9 時 30 分

KAMPONG GLAM [カンボン・グラム]

住所：
55 Bussorah Street

営業時間：
毎日午前 8 時 - 午後 6 時